Since1976　　横浜市立元石川小学校　　令和５年１１月３０日

学校だより

１２月号

横浜市青葉区美しが丘４－３１－１

℡　０４５（９０２）１８２１

HP　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motoishikawa/

積み重なる交流の輪

校長　野間 義晴

年の瀬が迫り、気ぜわしくなるこの頃です。先般、地域・保護者・中学校生徒や職員・本校児童や職員が本校体育館に集まり、地域で子どもを育てる意味から、「いじめの未然防止」をテーマに地区懇談会を行いました。本校での、年間を通してたてわりグループでの異学年交流に取り組んでいる「元小タイム」もいじめをなくすために有効であることも話し合われました。

11 月末には、全校ふれあい清掃を行いました。このたてわりグループで学校近くの山内公園や校舎内外の清掃に取り組みました。安全面や心温まる協力をいただきました保護者や地域の皆様方、ありがとうございました。当日を迎えるまでに子どもたちは、「みんなで協力して気持ちのよい学校や公園にしよう」と全校共通のめあてを決めて、各たてわりグループで取り組む場所や清掃活動の計画を話し合いました。グループの子どもたちは、当日を迎えるまでの準備とともに、たてわりグループの中で６年生をはじめとした上級生の話を実によく聞いている姿が印象的でした。初めは集合するのにも大変だった様子から、成長を感じました。

公園清掃は、「きれいにする。」という目的以外に、勤労の価値観、協力、分担、美的感覚、思いやりを養うことなどが挙げられます。地域への愛着はじめ SDGｓの取組にもつながります。学校生活で子ども全員が自ら取り組める仕事のひとつであり、当番活動の役割と、働くことの意義を学ぶことができます。清掃を通じて奉仕活動への意識やその喜びも体感できます。また、集団活動の大切さを学ぶよい機会にもなっています。

また、たてわりグループで取り組む清掃の長所としては、協力することの大切さを学べること。そして、異年齢の子どもたちが交流することにより、お互いにその年齢に応じた立場の役割を経験できることが挙げられます。年齢を超えた仲間意識が育つと同時に、異年齢であるからゆえのトラブルもまた、社会に出てから、違いを認め様々な年齢の人に対応できる柔軟さや、コミュニケーション能力を養うためにも必要といえます。このことは今月５日から取り組む人権週間や地区懇談会で話し合ったことにもつながります。

交流の輪は、公園清掃でおしまいではなく、常時行っている集会活動など、学年を超えて広がっています。上級生からばかりでなく、５年生から６年生へリードしてもらったり教えてもらったりすることへのお礼のメッセージを書いて渡す姿をはじめ、異学年とかかわり合う姿はいろいろな場面で展開されてきています。

このような交流を通して、自分の学年とは違う仲間への相手意識が生まれ、そこから異学年の相手を思いやる気持ちが芽生え、同時にそれぞれの学年が上級生へのあこがれや自分なりの目標が生まれています。これは一回でできることではなく、春からのいろいろな場面での積み重ねがあり、継続しているからこその育ちだと思いました。

さて、今年も一年間、保護者・地域のみなさまのご協力により、教育活動を推進することができ、本当にありがとうございました。新しい年も子どもたちのために、教職員一同、精一杯頑張ってまいりますので、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。